



第6回CPC

原発不明の 癌性腹膜炎の1例

開催日：平成19年10月17日(水)

時間：17:30～19:00

場所：病院本館C41講義室

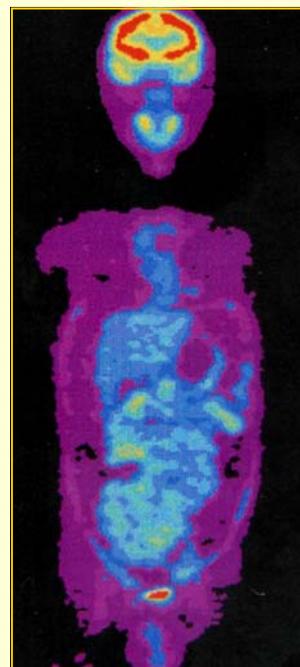
関連科：公立能登総合病院、一般・消化器外科、
第1病理学

司会： 森本 茂人 先生（高齢医学科）
福島 俊洋 先生（血液免疫内科）
ミニレクチャー： 湊 宏 先生（臨床病理学）
東 光太郎 先生（放射線科）

症例：50歳代 男性

家族歴：父；胃癌による癌性腹膜炎にて死亡。

臨床経過：上腹部不快感が出現し、CTにて多量の腹水を認めた。腹水穿刺細胞診で悪性細胞の出現をみたが、PETを含めた全身検索で原発巣を確認できなかった。腹水増量による呼吸困難、低酸素血症となり、全経過約1ヶ月で永眠された。（詳細は当日配布）右図はPET像である。



CPC(臨床病理検討会)は病理解剖症例をもとに、私たちの医療行為を振り返り、医療の質の向上をはかることを目的とする勉強会です。研修医、各科医師はもちろん、学生、全職員、院外の先生方にも参加いただけます。放射線科医による画像の読影、コメディカルや看護師による指定発言、今回は湊 宏先生に「病態と病理」に関して、東 光太郎先生に「原発不明癌におけるPETの有効性」のミニレクチャーを予定しています。

参加し、勉強しましょう！！

主催：金沢医科大学病院CPC実施委員会

連絡先：病院病理部（内線 5348）